

腎泌尿器外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、前立腺全摘術後記録していただいた「排尿日誌」のデータを使って行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。なお、この臨床研究は倫理審査委員会の審査を受け、研究方法の科学性、倫理性や患者さんの人権が守られていることが確認され、病院長の許可を受けています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

《研究課題名》 前立腺全摘術後の患者が骨盤底筋体操を尿道カテーテル留置中から実施することによる尿漏れ改善への効果

《研究機関名・研究責任者》 関西医科大学附属病院・11S病棟 看護師長 竹花 孝恵

《研究の目的》 前立腺全摘術後の尿漏れに骨盤底筋体操の有効な開始時期を明らかにする

《研究期間》 研究許可日～2020年3月31日

《研究の方法》

●対象となる患者さん

前立腺腫瘍のため前立腺全摘術を施行した患者さん

2017年3月1日から2018年6月30日までの尿道カテーテル抜去後から骨盤底筋体操を実施した患者さん

および、2018年7月1日から2019年8月31日までの尿道カテーテル留置3日目から骨盤底筋体操を実施した患者さん

●研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、尿道カテーテル抜去後からの尿漏れ量、尿回数

《この研究に関する情報の提供について》

この研究に関して、研究計画書や研究に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

《この研究での検体・診療情報等の取扱い》

お預かりした診療情報等には匿名化処理を行い、患者さんの氏名や住所などが特定できないように安全管理措置を講じたうえで取扱っています。

《本研究の資金源・利益相反について》

この研究は外部の企業等からの資金の提供は受けておらず、研究者が計画して実施しているものです。したがって、研究結果に影響を及ぼすことはなく、患者さんの不利益につながることはありません。また、この研究の研究責任者および研究者は「関西医科大学利益相反マネジメントに関する規程」に従って、利益相反マネジメント委員会に必要事項を申請し、その審査と承認を得ています。

*上記の研究に利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

《問い合わせ先》

関西医科大学附属病院 腎泌尿器外科 看護師長 竹花 孝恵

大阪府枚方市新町2丁目3-1

電話 072-804-0101（代表）